

三条市幼児教育推進プラン (第2次) 実施状況

令和5年7月
三条市教育委員会

【重点項目1 幼児教育内容の一層の充実】

ア 「遊び」を通じた豊かな教育活動

〈参考：保育者・教職員アンケート結果（計画初年度・最終年度 対比）〉

※ 注記：令和元年度の結果は、感染症拡大前の参考数値です。数値に付している矢印は、平成28年度に対する結果の異動を表します。

項目	内容	平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
①運動遊びの推進	「運動遊び」を適切な時間にわたって意図的に実施した園の割合	81%	(↑ 91%)	↑ 86%	↑ 90%
②指導計画の改善・充実	保育者8割以上が指導計画の実施状況を評価・改善している園の割合	64%	(↓ 61%)	↓ 63%	↑ 68%
③体験活動の充実	8割以上の保育者が成長につながる豊かな体験ができるよう活動を工夫している園の割合	79%	(↓ 65%)	↓ 72%	↑ 87%
④5領域の教育・保育内容の充実	8割以上の保育者が教育・保育内容の充実を意識している園の割合	79%	(↑ 81%)	↓ 75%	↑ 87%

【考察】令和4年度は、初年度(H28)、前年度(R3)と比べ、全ての項目において取組割合が増加した。感染症禍の様々な制限の中でも、子どもの育ちを支えるための教育活動の工夫が図られ、各取組が少しずつ浸透している。

②の計画の改善・充実については、今後さらに、その意義を理解し効果的な取組が図られるよう、好事例の発信や、研修会の開催などにより支援を行っていく。

イ 特別な配慮が必要な子どもへの支援

項目	内容		平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
①三条市子ども・若者総合サポートシステムの充実	園内での発達障がいへの早期の気づき、関係機関への連携	いずれかの項目を実施	93%	(↑ 100%)	↑ 100%	↑ 100%
	○保育者の専門的知識向上の取組の実施 ○全保育者が関係機関との連携を理解 ○保育者間の情報共有やケース検討を実施	うち3項目実施	45%	(↓ 42%)	↓ 34%	↓ 26%
②年中児発達参観の着実な実施	年中児発達参観を実施した園の割合		94%	(↑ 97%)	↑ 97%	↑ 97%
③発達障がいに対する啓発活動の充実	発達障がいに関する情報提供の実施 ○全保護者を対象に発達	いずれかの項目を実施	94%	(↑ 100%)	↑ 100%	↑ 100%

実	障がいの講話を実施 ○必要な保護者に個別で 情報提供 ○園内にポスター・パン フ配置 ○相談窓口一覧の掲示	施				
		うち 3 項目以 上実施	44%	(↑ 52%)	↓ 41%	↑ 48%
④発達支援コ ーディネー ターを中心 としたサポ ート体制の 確立	保護者のサポート、関係 機関との連携 ○園内の連携の調整や研 修の実施 ○保護者の相談受付 ○関係機関の連携窓口 ○担任保育者への支援	いずれ かの項 目を実 施	97%	(↑ 100%)	↑ 100%	↑ 100%
		うち 3 項目以 上実施	55%	(↑ 61%)	↓ 53%	↑ 61%
⑤ユニバーサ ルデザイン の視点に立 った保育環 境の構成	保育の環境構成の工夫 ○意識集中のため保育者 の背後壁面等に配慮 ○園内の生活等において 視覚面から支援 ○大きな音(楽器や雑音 等)への配慮 ○話し方や環境構成等、 ユニバーサルデザイン の工夫に関し園内で話 し合いを実施	いずれ かの項 目を実 施	97%	(→ 97%)	→ 97%	↑ 100%
		うち 3 項目以 上実施	36%	(↑ 48%)	↑ 47%	↑ 55%

【考察】特別な配慮を要する子どもを支える様々な体制は構築されてきた。発達支援コーディネーターを中心とした園での支援体制や、関係機関との連携が更に強化し、支援の充実が図られるよう、研修や専門職員による相談対応等でサポートしていく。

ウ 教職員の資質や専門性の向上

項目	内容		平成 28年度	(令和 元年度)	令和 3年度	令和 4年度
①資質、専門 性の向上の ための研修 の充実	園内・外研修の在り方を 工夫 ○園内での保育の相互チ ェック ○各種園内研修の実施 ○各種園外研修への参加 ○園外研修で学んだこと の園内での共有	いずれ かの項 目を実 施	97%	(↑ 100%)	↑ 100%	↑ 100%
		うち 3 項目以 上実施	75%	(↑ 77%)	↑ 78%	↓ 55%
②特性に応じ た幼児教育	子どもの様子の記録（メモ等）に ついて、8割以上の保育者が実践		85%	(↑ 90%)	↑ 94%	↓ 81%

の実施	している園の割合				
③保護者との信頼関係の構築	保護者へのアドバイスについて、8割以上の保育者が実践している園の割合	97%	(↓ 94%)	↓ 94%	↓ 87 %

【考察】③の保護者へのアドバイスの実践の園の割合が、やや減少している。感染対策により送迎時や行事等で保護者と話をする機会が減り、アドバイスをしにくい状況等もあったが、子どもの様子を把握して的確なアドバイスを行う日常の取組意識や、必要となる専門性をさらに高めていけるようにする。

エ 信頼される幼稚園・保育所(園)づくり

項目	内容	平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
①評価サイクルによる保育所評価の実施	保育所評価を実施している園の割合	81%	(→ 81%)	↑ 91%	↑ 94%
②保護者先生体験の実施	先生体験を実施した保護者数	392人	(↑ 472人)	↓ 76人	↓ 79人

【考察】園評価を行うことの重要性、その理解が浸透し、実施園が増えている。評価の実施・公表をすることが保護者との信頼関係や園の保育内容の充実につながることを引き続き伝え、着実に実施していけるようにする。

【重点項目2 幼稚園・保育所(園)等と小学校の連携の推進】

ア 確実な引継ぎ・継続的な支援

項目	内容	平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
①個別の発達支援計画等の活用	「個別の発達支援計画」の小学校への引き継ぎを行っている園の割合	97%	(↑ 100%)	↑ 100%	↑ 100%
③三条市子ども・若者総合サポートシステムの啓発	三条市子ども・若者総合サポートシステムの紹介を行っている園の割合	73%	(↓ 68%)	↑ 91%	↑ 100%

【考察】就学に向け、要録（「保育所保育児童要録」等）や「個別の発達支援計画」の引き継ぎは確実に行われ、継続した支援のための資料として活用されている。

また、③の啓発についても全ての施設で行われた。今後も、幼児期の育ちや学び、支援の継続性をより大切に捉え、小学校等へ継続的につなぐことができるよう努めていく。

イ 交流活動の推進

項目	内容	平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度	
①幼保小交流活動の充実	活動を振り返り課題に対する改善活動を実践している園の割合	100%	(↓ 97%)	↓ 87%	↓ 87%	
②幼保小連携合同会議の開催	交流活動後の子どもの様子 ○小学校等入学を楽しみにするようになった。 ○顔見知りが増え友達作りが積極的になった。 ○自発的に自分のことは自分でできるようになった。 ○知的好奇心が育った。	いずれかの項目に該当	100%	(→100%)	↓ 97%	↓ 97%
	職員交流活動の成果 ○幼児教育や学校教育の違いや内容を知ることができた。 ○他施設や小学校の行事等を知ることができた。	うち3項目以上に該当	76%	(↑ 94%)	↓ 50%	↓ 45%
	○小学校への子どもの情報の引継ぎがしやすく	いずれかの項目に該当	100%	(→100%)	↓ 94%	↓ 97%
		うち3項目以上に該当	97%	(↓ 87%)	↓ 63%	↓ 55%

	なった。 ○接続期の教育を意識し、実践した。					
--	---------------------------	--	--	--	--	--

【考察】交流活動については、感染症禍において行事等の参加が難しかったが、対策を図りながら工夫して実施している。その結果、子どもが入学を楽しみにするようになることや、職員同士が接続期を意識し教育実践をすることができる等の成果があげられる。今後も、連携会議等において、交流活動の振り返り・改善を図っていくことをより浸透させていく必要がある。

ウ 育ちのつながりを意識した指導

項目	内容		平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
① 保育参観・授業参観の充実	保育者が小学校等の授業参観に参加した園の割合		100%	(→ 100%)	↘ 75%	↘ 94%
	教員が保育参観に参加した学校の割合		67%	(↑ 84%)	↑ 72%	↑ 94%
② 安心わくわくプログラム、スタートモデルカリキュラムの活用	職員への周知と研修を実施した園の割合	年長児担任対象	61%	(→ 61%)	↑ 88%	↑ 74%
		全職員対象	18%	(↑ 19%)	↘ 3%	↘ 10%
	年長児担任の活用	安心わくわくプログラムのみ活用	58%	(↑ 65%)	↘ 53%	↘ 42%
		安心わくわくプログラム、スタートモデルカリキュラム両方の活用	36%	(↘ 23%)	↑ 38%	↑ 39%

【考察】保育参観、授業参観は、感染症禍により実施できないこともあったが、幼稚園・保育所(園)等と小学校が相互に保育や授業を参観し合うことで、幼児や児童との関わり方、指導の仕方を知ることができた。また、支援の見通しをもつことができた。

「安心わくわくプログラム」「スタートモデルカリキュラム」の活用により、接続を意識し、学校生活や授業がスムーズにスタートできている。今後とも、活用の研修や情報交換を行う等の工夫をしていきたい。

【重点項目3 家庭への支援の充実】

ア 家庭の教育力の向上支援

項目	内容	平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
----	----	--------	---------	-------	-------

①家庭教育講座の充実	園での講座の開催	独自開催した園の割合	67%	(↓ 61%)	↓ 50%	↓ 55%
		市主催のみ実施した園の割合	50%	(↑ 52%)	↑ 66%	↑ 74%
③家庭への情報発信	家庭教育のアドバイスや講座等事業への参加促進を行った園の割合		97%	(→ 97%)	↓ 94%	↓ 68%
④家庭教育や子育てに関する相談の実施	相談機関の周知・紹介を行った園の割合		100%	(→100%)	→ 100%	→ 100%

【考察】④の相談機関の周知・紹介は、全ての園において行われ定着している。

令和4年度の③の情報発信の取組割合が減ったことについて、園ではおたより等を活用した情報発信は行っているものの、家庭教育を意識したアドバイスはあまり行っていない、感染症禍により各種講座への参加を促すことを積極的には行わなかった等の状況があった。家庭の教育力の向上につながるアドバイスや情報発信を行う意識や取組が更に浸透していくようにする。

イ 地域の子育て支援の拠点化

項目	内容	平成28年度	(令和元年度)	令和3年度	令和4年度
①親子が気軽に交流できる拠点づくり	園庭の開放や交流活動を行った園の割合	91%	(↑ 97%)	↓ 66%	↓ 45%
②子育て支援の情報発信	地域へ子育て情報の提供を行った園の割合	82%	(↑ 90%)	↑ 84%	↓ 68%

【考察】感染症禍により、利用者も交流を控えていた状況が続いた。現状に合った子育て支援の情報発信や地域の拠点としての取組を工夫し、更に充実していくよう支援していく。